

明日は いよいよ『プレイ・デイ』です。

この行事を理解して頂くために開催した先日の保護者会にも、お忙しい中 ご出席くださりありがとうございました。その際にも少し触れました通り、幼児期の『運動会』の捉え方は様々ですが、号令や指示が飛び交う中での 画一的な子ども達の姿を良しとする取り組みや、見せること、披露することのみが重視されてしまうような活動には やはり疑問を感じます。つのぶえ保育園では、集まった全員が参加し、全員が楽しめることをテーマに 同じ空間で年齢も性別も立場も超えて、共に想いを分かち合うひと時を過ごそうと、運動会ではなく “皆で遊ぶ日” と名付けました。主役は 子ども達です。そして 皆さんひとりひとりです。進行役は 毎年、保育園のリーダーである年長組が務めます。普段の保育の姿そのままです。この日に照準を合わせた練習を重ねるような 特別なプログラムは 一切 設けていません。ですから、見栄えはよくないかもしれません。何となく覚束ないところが多いと思います。けれども、子ども達の瞳はキラキラと輝き、熱意と意欲いっぱい 自分の意思で主体的に動き、友達と考え合い 励まし合いながら 楽しんでいる姿であふれていることと思います。保育者養成校の学生達や 園に来る実習生に話をする機会があると、必ず訊いてみる質問があります。「先生達が『きれいに並んで！』と必死に子ども達を整列させようとしている時 その状態を『きれい』と感じるのは 誰でしょう？」しばらく考えた後 学生達は皆 ハッと気がつきます。“並ぶ” ことの意味も分からず、その“きれいさ” も全く実感できないままただひたすら先生の指示に従い、目の前の友達の後頭部だけを見つめ くっついているだけ。乳幼児期に在る子ども達にとって、こういった“わけのわからないこと” を 園生活の中で敢えてさせる必要はありません。“きれいな列をつくる” 目的ではなく “順序を明確にする” “順番のため” 並ぶことの必然性に気がつけるよう導くことで 子ども達は試行錯誤しつつ それをも楽しみながら 自ずと一列をつくっていきます。客観性が育っていないこの時期に 外側からのまなざしや、優劣・正誤などの評価を意識させることは かってマイナスです。今 何より大切なのは 子ども達ひとりひとりが、あるがままを良しとされ 受け入れられて 生き生きと大らかに 自分自身を表現する喜びに満たされ、内なる心を育み合うことです。それは、見た目や外側に心奪われることなく、目には見えないものにこそ 真の価値があり “物事の本質” に 常に目を向け、揺るがない生き方へと繋げていく心根の基礎となります。保護者会で紹介しました『子どもへのまなざし』で有名な 児童精神科医の佐々木正美氏は子育てに悩むお父さんお母さんに向け 数々の著書を出版し、絶大な支持を受けていました。その中の『育てたように子は育つ』（小学館）で、相田みつを氏の「そのままがいいがな」を取り上げ、「これこそ、子どもへの最高の愛情表現である。すなわち無条件の承認である。条件をつけない愛情である。こういう愛情が与えられれば 子どもは必ず生まれもったものを豊かに開花する。」と述べています。そして、繰り返し繰り返し語っていたことのひとつが 「子どもの心の内に “根拠の無い自信” を育むことの大切さ」でした。能力や学力などの “根拠のある自信” は、その根拠となることが もし何かによって失われてしまった瞬間に揺らぎ、奪われてしまうことになるでしょう。けれども、親から無条件に愛されることを通して培われた “根拠の無い自信” は、どんなことがあっても 決して揺らぐことはなく どんな時も 子どもの誇りとなり、自分を愛する(肯定できる)心で生きていけるでしょう。キリスト教を信じし様々の愛を大きな贈り物として生きた佐々木氏は「神さまを頼りにして 生きているから、楽に、そして強く生きられる。人間は本当に頼ることの出来る人や物に恵まれた時こそ、安心して強く生きることが出来る」とも述べています。乳幼児期にこそ 無条件の愛を 温かなまなざしを 子ども達の心に たくさん注ぎ続けることだと思います。プレイデイは 子ども達とその想いを確信できる素晴らしい機会です。明日は つのぶえの子ども達全員と、どうぞ 心温まる楽しいひと時を分かち合ってください。神様によって 与えられたすべての方々との出会いを心から感謝し、祈りつつ・・・ (石田 記)

『主は、ご自分の羽根で、あなたをおおわれる。主の真実は大盾であり、砦である (詩篇 91 : 4)』